

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	・国語においては、漢字に関する問題の正答率が低い学年があったことから、漢字については日常から意識して活用を図るほか、習熟の時間を確保するなど、課題の解決を図る。 ・算数においては、円の直径や半径など図形に関する問題の正答率が低い学年があったことから、習熟度に応じた学習をさらに進めることにより、確実な定着を図る。
思考・判断・表現	・国語においては、文章を書く際に、事実と自分の考えの違いを明確にするよう指導する。 ・算数においては、グラフの読み取りを苦手としている学年があったことから、算数に限らず社会や理科などの他教科においてもグラフを意識させる授業を展開する。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きく、特に学力に課題のある児童への充実した指導が必要である。学力に学習進度が合っていない児童が多い。	⇒ ・分かったことや考えたことを自分の文章で書く時間を設定し、書くことに対する児童の意欲を高める【毎時間】。 ・書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリ等のICTを活用して、一人ひとりの課題にあった学習に取り組ませる【通年】。 ・算数においては、習熟度に応じた学習や少人数指導を展開し、学力の個人差に対応して基礎的・基本的な知識や技能を強化していく【通年】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きく、特に学力に課題のある児童への充実した指導が必要である。読み取ったことや考えたことを文章で表現する指導が十分に確保できていない。	⇒ ・学校全体で「学習のルール」や「学び方」について指導するほか、必要感のある課題設定、主体的に解決する場面の設定について学校課題研修として取り組んでいく【通年】。 ・ICTを効果的に活用し、図や表などを提示して説明したり共有を図ったりする【毎時間】。 ・学習形態や学び合いの工夫を進めることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る【通年】。

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
 <小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当)	・国語、算数とも、課題としていた領域について改善した学年が多く、自分の考えを文章化する学習や、習熟度に応じた学習、少人数学習を推進した成果が得られた。
思考・判断・表現	A	職員会議・校内研修等	・どの教科でも、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す授業を進めたことにより、国語や算数とも市の平均正答率を上回る学年が多く、課題が改善した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語、算数の「知識・技能」の観点において、課題としている国語の「書くこと」「読むこと」及び算数の「変化と関係」「データの活用」とも、改善が見られた。国語においては、他と比べて苦手としている漢字があるため、引き続き漢字の習得に力を入れる。算数においては、特に「図形」の問題の正答率が高く、作図や角の大きさなどを十分に理解している児童が多かった。	
思考・判断・表現	国語、算数の「思考・判断・表現」の観点において、課題としている国語の「書くこと」「読むこと」及び算数の「変化と関係」において改善が見られた。国語においては、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように工夫して書くことができる児童が多かった。算数においては、「データの活用」の問題で市平均を上回ってはいるものの平均正答率が低く、グラフから読み取れることを言葉や数で記述できる児童が比較的少なかった。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語の「知識・技能」にかかわる問題について、4学年中3学年が市の平均正答率を上回った。 ・国語の「読むこと」の領域にかかわる問題について、すべての学年が市の平均正答率を上回った。 ・算数の「知識・技能」にかかわる問題について、4学年中3学年が市の平均正答率を上回った。 ・算数の「変化と関係」「データの活用」の領域にかかわる問題について、4学年中3学年が市の平均正答率を上回った。	
思考・判断・表現	・国語の「思考・判断・表現」にかかわる問題について、4学年中3学年が市の平均正答率を上回った。 ・自分の考えと事実との関係を明確にして書いたり、事実を挙げながら相手に伝わるように話の構成を考えたりする問題の平均正答率が低い学年があった。 ・算数の「思考・判断・表現」にかかわる問題について、4学年中3学年が市の平均正答率を上回った。 ・グラフの読み取りを苦手としている学年があった。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	算数において習熟度に応じた学習や少人数指導を推進し、児童の学習に対する意欲がとて高まっている。また、タブレット端末を活用し、自分の思いや考えをこまめに入力していく活動を実践しているため、「書くこと」に対して前向きに取り組んでいる児童が多くなった。	変更なし
思考・判断・表現	A	学習形態や学び方を工夫し、児童が自らの学びを選択し決定できるよう研修を推進している。また、児童がICTを活用して思いや考えを友達と共有することで、授業の中で児童が自分の思考を文章で表現する場をより多く設定することができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)